



子どもの森づくり通信

(発行: NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク)

「子どもの森づくり運動」
フラグシップ園会報
(2013年5月号)

〒144-0054 東京都大田区新蒲田1-10-4 tel:03-5711-0362 fax:03-5711-2264
http://www.kodomonono-mori.net mailto:info@kodomonono-mori.net

「子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。



東北から届けられたどんぐりを、バッグアップとして事務局(東京)にて約1500個育てています。5月末現在、その内、約180個が発芽しました。約1割強の発芽率ですが、小動物に食べられる自然界ではもっと厳しい率になると思われます。そんな貴重な生命(いのち)を預かっているんですね。

(目次)

1. 東北復興グリーンウェイ「苗木のお披露目会」レポート
 2. ロハスデザイン大賞2013「新宿御苑展」レポート
 3. 「苗木を見守る活動」レポート
 4. 事務局からのお知らせ
- どんぐり博士の育苗講座「基本編⑤」

■「子どもの森づくり運動」とは

今子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかし、子どもたち(特に幼少期の)は、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「子どもの森づくり運動」は、全国の保育園・幼稚園を拠点に一貫した森づくり活動を通じて、幼児期の子どもたちに「生きる力」と「健全な環境意識」を育むための自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「JP子どもの森づくり運動」とは

特別ご協賛企業「日本郵政グループ」様との協働で、運動を全国に普及促進するフラグシップ活動を「JP子どもの森づくり運動」、フラグシップ活動実施園を「JP園」として活動を展開、2010年7月、フラグシップ園全国ネットワークが構築されました。

■「子どもの森づくり運動」運営体制

・運営 : NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

・特別協賛 : 日本郵政グループ

・後援/協力 : (社)全国私立保育園連盟

(順不同) (社)国土緑化推進機構

全国森林インストラクター会

NPO法人MORIMORI ネットワーク

(株)実業之日本社 月刊ガルヴィ編集部

(社)大谷保育協会

NPO法人C・C・C 富良野自然塾

NPO法人自然体験活動推進協議会

(社)日本オート・キャンプ協会

保育環境研究所ギビングツリー



1. 東北復興グリーンウェイブ「苗木のお披露目会」レポート

2013年5月22日、グリーンウェイブの日に、岩手県山田町の三つの保育園（織笠保育園、山田町第一保育所、豊間根保育園）合同の「苗木のお披露目会」が開催されました。今年の東北の春は、GWに雪が降るなど天候が不順でなかなか暖かならず、プランターに植えたどんぐりが、なかなか発芽しませんでした。子どもたちや保育士さんたちが、「お披露目会」に間に合うかどうかとても心配したそうです。それでも、そんな願いが届いたのか、どんぐりたちは数日前には小さいながらちゃんと芽を出してくれました。



お披露目会は、まず山田町での活動を応援してくれる方々から応援メッセージをいただきました。まず、来年、全国から集まってくる苗木の植樹フィールドでお世話になる山田町農林課の尾形課長さん、そして、事務局と共に全国で活動をサポートする日本郵政グループから豊間根郵便局の飛内局長さんからごあいさついただきました。



山田町 尾形課長さん



豊間根郵便局 飛内局長さん

その後、豊間根保育園、織笠保育園、山田町第一保育所の順番で、園長先生や保育士さんから、それぞれの園で発芽した苗木をお披露目していただきました。なかなか暖かにならない気候の中、本当に芽がでるかどうか心配していた様子とか、そんな厳しい環境の中、頑張っって芽を出してくれた元気な苗木だからきっと大きくなるぞとか、一生懸命お世話しているエピソードが紹介されました。それから、どんぐり博士の河内さんの指導で、苗木を大きく育てるために発芽したどんぐりの苗木をプランターからポットに植え替えました。芽はまだ小さいので、みんな慎重に、植え替えていました。



これから山田町のこどもたちと全国の子どもたちは、来年の春まで、共に発芽したどんぐりをみんなで大きな苗木に育てる活動となります。そして育てられた苗木は、2014年5月22日の「グリーンウェイブ2014」の日に、ここ山田町の一画に植えられます。事務局では、本活動を通じて、被災地の緑の復興に寄与すると共に、被災地の子どもたちと全国の子どもたちが、どんぐりの絆で結ばれることを願い、そのための交流を積極的に推進したいと思っています。

2. ロハスデザイン大賞2013「新宿御苑展」レポート

5月17日(金)～19日(日)の期間で、“人間と自然が共存するための持続可能な社会を創造するモノや考え方、行動を審査する”第8回ロハスデザイン大賞の「新宿御苑展」が開催され、大賞の最終審査が実施されました。「子どもの森づくり運動」では、「東北復興グリーンウェイブ」の活動で同賞にエントリーし、コト部門で最終審査にエントリーされました。最終審査は、インターネットによる投票と、新宿御苑展会場での直接投票にて行われました。展示会開催期間中は、好天に恵まれ、多くの来場者でにぎわっていました。最終審査の結果は6月初旬に発表されます。

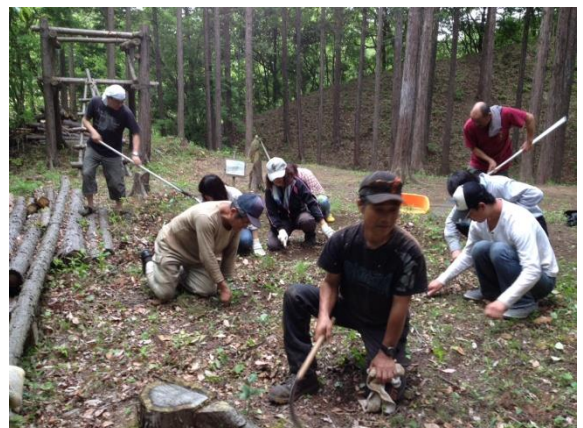


3. 「苗木を見守る活動」レポート

関東エリアの共用植樹フィールドである「市原市民の森」において、サポート団体「いちほら自然楽校」のスタッフによる草刈り活動が5月に行われました。以下、同団体鶴岡事務局長さんのレポートです。

NPO法人いちほら自然楽校では、国際森林年の一昨年、グリーンウェイブの活動の一環で、「子どもの森づくり運動」における清心幼稚園（東京都練馬区）の植樹活動に協力し、「市原市民の森」に子ども達と一緒に苗木を植樹しました。周りの草を除去し活動を終えましたが、今年はまた、夏、秋ころ状態を観察し、周りの樹木他との関連について考えたいと思います。今後も、この地を見守りながら子ども達がまた訪れる日を待ちたいと思います。

NPO法人いちほら自然楽校 事務局長 鶴岡正仁



3. 事務局からのお知らせ

1)「苗木のお披露目会」開催のご提案

やっと全国的に暖かくなり、あちらこちらでどんぐりが芽吹く季節となりました。それぞれの地域や東北から届けられたどんぐりを撒いたポットやプランターから、可愛い赤ちゃんの様な双葉が芽生えてくれるでしょう。そんな季節ならではの活動として、「苗木のお披露目会」の実施をお奨めします。活動を通じて、子どもたちと共に生命の芽生えを祝い、あらためてみんなで苗木を大切に育てていこうという気持ちを共有してくれます。できれば、保護者の方たちにも参加してもらい、そんな子どもたちの活動風景をご覧いただけると良いですね。そして、是非、事務局宛に活動レポートをお送り下さい。



2)ホームページまで活動情報やレポートをお送り下さい。

事務局ではホームページを通じて皆様の活動を積極的に発信させていただきたいと思っております。

活動情報やレポート、写真をお送り下さい。森づくり活動に限らず、卒園式の風景など、園としての活動であればなんでも結構です。送信先: info@kodomonono-mori.net 〒144-0054 東京都大田区新蒲田1-10-4-3F「子森ネット」



●どんぐり博士の育苗講座 2013～基本編⑤～

この通信にも報告が掲載された、岩手県山田町での東北復興グリーンウェイブ、苗木お披露目会に参加して来ました。その会で、私が子どもたちと一緒に取り組んだのが、苗木の植え替え作業です。それは作秋のどんぐりの植え付けを、子森オリジナルのスギ製プランターに行ったためです。そこで今回は、プランターに植え付けた場合、なぜ育苗ポットに植え替える必要があるのか説明します。*どんぐり博士:河内和男(森林インストラクター)



黒い育苗用ポリポットに植え替えた苗は味気ない感じがしますが、ポットで1本ずつ苗を育てた方が、植樹後に厳しい自然の中でも枯れずに残りやすいとされています。その理由はいくつかありますが、特に苗育てで押さえておきたい2点を記します。

①根がポットの形に形成され、その形のままで取り出し植樹できるので、根を切ってしまうことや傷めることが無く、根付きやすくまたしっかり成長しやすい。

②植樹時にポットから簡単に苗を土ごと取り出すことができ、すぐ植え付けることができるので、根を乾燥させることが無く、植樹後すぐに枯れてしまうことが少ない。(植樹時に根が裸になり数分放置されると、根が乾燥して機能を失い枯れてしまう事がある。)

以上のようなわけで、確実な森づくりのためには大切な作業です。特に東北復興グリーンウェイブの苗木の場合、来年の郵送のため、しっかりと根の張ったポット苗に育てる必要があります。プランターにどんぐりを植え付けた園では、是非この時期にポットへの植え替えを行ってください。よろしくお祈りします。